

令和6年度 第1回 副首長懇談会

開催挨拶・来賓挨拶

谷本理事長

近畿建設協会では、公益事業の一環として都市経営を直接担当する市町村の首長等を対象としたトップセミナー及び副首長懇談会を開催しています。本日は、地域活性化とまちづくりをテーマに開催します。一つでも新しい情報、ヒントを持ち帰りいただけたらと思います。



中橋近畿地方整備局建政部長

地域活性化のための大きな柱はコンパクト＋ネットワーク。その基礎となる立地適正化計画の質も含めた向上が求められます。またウォークアブルの取り組みは、地域内外の交流を生み、イノベーションを起こします。これらを推進するために官民連携は必須となります。



基調講演・特別講演・事例紹介①②

(一財) 民間都市開発機構 渡邊常務理事

・民都機構は、昭和62年に金融を通じて民間のまちづくりを支援するために設立。大きい開発だけではなく、小さい支援も実施しています。
・支援メニューや事例の紹介とともに近代都市計画の流れや車中心から人中心のまちづくりへの転換、その実現方法としての公民連携について解説していただきました。



京都大学大学院 山口准教授

海外の道路空間再編について、海外では、道路空間は人と車の利用者数に応じて公平に配分する考え方が定着していることや、ヨーロッパのロンドン、ロッテルダム、パリ、ブリュッセル、ウィーンバルセロナの6都市の事例を講演していただきました。



(株) シーセブンハヤブサ 山崎コミュニティ マネージャー

地区唯一の小学校の廃校により、一番危惧したのはコミュニティの断裂。小学校は小学生が学びに行く場だけではなく、単地区のコミュニティの拠点となっていました。隼ラボは、地域のコミュニティを再編し、新たなコミュニティ拠点となるとともに、地域に新たな仕事や職を生み出しビジネスの拠点となります。



柳ヶ瀬を楽しいまちにする 株式会社 大前取締役

魅力的なコンテンツをまちに集める仕組みをつくり、それを常態化すれば、自ずと魅力的な空間が生まれ、起業したい人が集まる。そのため、定期的なマルシェを実施し、その先にシャッター商店街の再生の流れをつくることのできるという考えのもと、サンデービルディングマーケットを始めました



パネルディスカッション

■コーディネーター 山口准教授

■パネラー

- ・上記講演者
- ・岐阜市みらいのまちづくり財団 白橋係長

山口准教授のコーディネートにより、登壇者から講演では語られなかったこと等を聞き出しました。また、白橋係長からは、官と民をつなぐ公社の役割についての話がありました。



白橋係長

令和6年度 第1回 副首長懇談会

■日時：令和6年7月22日（月）午後1時30分～5時00分

■場所：OMMビル203・204・205会議室

■主催：一般社団法人近畿建設協会

■挨拶：一般社団法人 近畿建設協会理事長 谷本光司

■来賓挨拶：近畿地方整備局建政部長 中橋宗一郎氏

■事例紹介1：

「岐阜市柳ヶ瀬のまちづくり」

～マルシェを活用した商店街再生～

柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社 取締役 大前貴裕氏

■事例紹介2：

「鳥取県八頭町隼ラボの取り組み」

～廃校を活用したコミュニティ再編とビジネス拠点化について～

株式会社シーセブンハヤブサ コミュニティマネージャー

山崎みどり氏

■基調講演：

「公民連携による地域活性化まちづくり」

一般財団法人民間都市開発機構

常務理事 渡邊浩司氏

（元国土交通省大臣官房技術審議官（都市局担当））

■特別講演：

「海外の道路空間再編と中心市街地活性化の動向」

京都大学大学院工学研究科社会工学専攻景観設計学分野

准教授 山口敬太氏

■パネルディスカッション

コーディネーター

山口敬太氏

パネラー

上記講演者のほか

（一財）岐阜市未来のまちづくり財団

まちづくり支援係長 白橋利明氏

※東海道新幹線の事故の影響で講演順序、講演者を変更

－ 会場風景 －



参加自治体数 49自治体

- ・副首長参加者数 34名
- ・その他参加者数 48名

総参加者数（事務局除く）

91名

令和6年度 第2回 副首長懇談会

令和6年度 第2回 副首長懇談会

（一社）近畿建設協会では毎年、防災、まちづくりといった自治体の課題に対応し識者の方々からご講演をいただくセミナー（首長等対象）を開催しております。今回のセミナーは、「公園・広場の新しい使い方と発信力」をテーマに行いました。

- 日時：令和6年10月11日（金）午後1時30分～5時00分
- 場所：シティプラザ大阪 2階 燦（さん）会場
- 主催：一般社団法人近畿建設協会
- 挨拶：一般社団法人 近畿建設協会理事長 谷本 光司
- 来賓挨拶：近畿地方整備局建政部公園調整官 曾根 直幸 氏

- 基調講演：
「公園・広場の新しい使い方」
国土交通省都市局公園・緑地景観課 課長 片山 壮二 氏

- 特別講演：
「パークナイズ 公園化する都市」
株式会社オープンA 代表 馬場 正尊 氏

- 事例紹介1：
「全国の子育て世帯が熱狂 ハダシランド」
アウトドアスポーツやまぐち協同組合理事長
ポーザー株式会社 CEO 三由 野 氏
合同会社アクト・スリー 代表社員 綿谷 孝司 氏
周南市 都市整備部公園花とみどり課兼スポーツ振興課
（国土交通省PPPサポーター） 主査 赤松 透 氏

- 事例紹介2：
「河内長野市（仮称）南花台中央公園の取り組み」
河内長野市 理事 谷ノ上 浩久 氏

- 交流会

－会場風景－

参加自治体数 55自治体
自治体出席者数 88名
・副首長 28名
・その他 60名

総参加者数（事務局除く）
99名

開催挨拶・来賓挨拶



谷本理事長

近畿建設協会では市町村の皆様が、日ごろ都市を経営・運営していく中で抱えている諸課題に対して、何か解決のヒント、糸口を提供できればという考えから、このようなセミナーを開催させていただいています。



曾根調整官

本日のような幅広く最先端の知見をいただける機会は貴重なものだと思います。今日、学んだことをそれぞれの現場で、公園・広場の新しい活用・発信の後押ししていただき、それにより、近畿のまちづくりが一層前進することを期待しています。

基調講演・特別講演・事例紹介①②



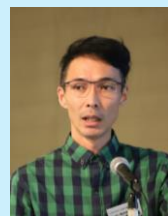
国土交通省 片山課長

都市公園の概要、パークPFI制度、「都市公園新時代」について解説。これからの公園は、様々な社会的需要が出てきている中で、整備、管理、運営していくためには、今の柔軟な使い方やいろいろな取り組みを蓄積し、エビデンスを積み重ねていくことが重要である。



株式会社オープンA 馬場代表

人間は、鉄やコンクリート等で自然を覆いつくして都市をつくってきた。今、その都市自体をもう一度、公園化するような、まさに価値観の逆転が起こっている瞬間。密から疎、所有から共有へ。このようなことが起こるのは、単に企画・デザインだけではなく、マネジメントをセットで考えないとうまくいかない。行政の発注と契約にこそ、クリエイティブが必要で、そこに未来がある。



アウトドアスポーツやまぐち協同組合 三由氏

ハダシランドは、過疎の地域でも、公園に多数の人を集めることができる。ここに企業は出資し、公共空間はオープンイノベーションを成立させる場となる。



周南市役所 赤松主査

禁止則ばかりの公園で、どうやって行政内部を調整し、公園をハダシランドに解放したのか。行政から見たハダシランドの実施プロセスを課題の認識、庁内の合意形成、取り組み実施、リスクの対応の観点から説明。ハダシランドは当たり前だった風景を取り戻すものであり、いま必要な状況に対応して変化できる。そして公園は、その変化に追従できる空間である。



河内長野市 谷ノ上理事

南花台中央公園は、開発団地のまちの真ん中にサッカースタジアムのある公園を後から作るというもので、開発の団地の中のコノミヤが、なでしこリーグのスペランツァ大阪のメインスポンサーであり、チームの本拠地が定まっていなかったもので、このまちづくりと連携したサッカーチーム作りをやりたいという話をいただき、一緒に考えようということになった。地域住民が活動し、いろんな企業を味方につけて事業をしてきたこと、行政だけでは、とてもこのような状況を産めなかった。まさしく、地域住民とともに手にしたまちづくりのチャンスとなった。

パネルディスカッション

- コーディネーター 山口准教授

- パネラー 上記講演者

山口准教授のコディネートにより、登壇者から講演では語られなかったこと等を聞き出しました。



山口准教授

